

2021年度4月1日より、ルール、インタープリテーション、オフィシャルズマニュアルが変更になっています。以下に要点を整理しましたのでご確認ください。また、2021競技規則（ルールブック）についてはJBAのホームページから購入またはダウンロードできます。オフィシャルズマニュアルについてはJBAホームページから購入できます。（オフィシャルズマニュアルは2019年度に一度購入していただいているので、今回は購入を必須としません。下記変更点を確認して実践していただければと考えています。）プレーコーリング・ガイドラインも変更になっていますのであわせてご確認ください。

岡山県審判長 前花 直哉

○ルール変更、インタープリテーション（解説）変更点

① スカーフスタイルのヘッドバンドを身につけることは認められない。

「ハチマキ」も認められない。

② アクトオブシュート

・通常のショット

・ひと続きの動作の中でのショット

競技規則自体の変更ではない。判定への理解を明確にするための文言調整。

③ 介助について

「介助」とは、様子を見ることを含めて自チームのプレーヤーのためにチームベンチエリアを離れることをいう。その場合は交代しなければならない。以下の3つがポイント。

- ・コート内に入ったかどうか。
- ・自チームのベンチ付近かどうか。
- ・15秒以内ですぐに済む対応かどうか。

つまり、コートに入らず、自チームのベンチ付近で15秒以内に済む対応であれば交代しなくても良い。

④ スローインについて

4Q及び延長残り2分で審判が「イリーガルバウンダリーラインクロッシング」のシグナルを行わず、警告を示さなかった場合。スローインされる前にディフェンスが境界線を越えて体を動かしてもテクニカルファウルを宣することはできない。この場合、ディフェンスに警告が与えられ、その警告はディフェンス側のヘッドコーチにも伝えられる。ショットが入った後のスローインでもシグナルを行うこと。

⑤ タイムアウト/交代

フリースロー1本目を打った後にテクニカルファウルがあった場合、シューターの交代でベンチから出てくるプレーヤーがテクニカルファウルの罰則であるフリースローを打つことは可能。（その場合、相手も1人交代できる。）

⑥ コンタクト

ボールを持っているオフENSEのシリンドーを競技規則上に新たに定義した。それによって、ディフェンスが無理にリーガルなボールを持ったオフENSEのシリンドーに入りコンタクトを起こすケースの判定を

しやすくする。

⑦ ダブルファウルについて

2つのファウルが同じカテゴリーである場合（パーソナルファウルとパーソナルファウルなど）、ダブルファウルとすることができる。2つのファウルが同じカテゴリーでない場合（アンスポーツマンライクファウルとパーソナルファウルなど）、ダブルファウルは適用されずパーソナルファウルはいつでも最初に起きたと考えられる。

⑧ アンスポーツマンライクファウル C4

「相手チームのバスケットに向かって進行しているプレーヤーとボール、バスケットの間に、進行しているプレーヤーの相手プレーヤーが全くいない状況で、進行しているプレーヤーの後ろあるいは横から起こす不当な触れ合い。」に対してアンスポーツマンライクファウルが宣せられることとなった。（ボールコントロールがなくても適用されることとなった。）

⑨ スコアラー、アシスタントスコアラー：任務

スコアラーが多くの任務を担っているため、スコアラーの任務の一部をタイマーが行うことに変更。ただし、国内大会については、従来通り各業務を行う。

⑩ 24秒ルール/ショットクロックオペレーター：任務

フィールドゴールが放たれ、ディフェンスチームのバックコートで、ディフェンスのプレーヤーがファウルを宣せられたケースでゲームがスローインで再開される場合。ショットクロックに14秒以上が表示されていた場合、継続となり、13秒以下が表示されていた場合、14秒にリセットされる。

○ オフィシャルズマニュアルの変更点

① 2POにおいて、残り2分でタイムアウトが請求された際のマニュアル

- ・ タイムアウト40秒が経過し、チームベンチエリア付近へ移動するときトレイル審判はボールを持って移動する。
- ・ リード審判は、ヘッドコーチにスローインの位置を確認し、笛を吹いて声と指さしでスローインの位置を相手チームとトレイル審判に伝える。
- ・ トレイル審判は、リード審判の合図を受けて相手チームヘッドコーチにスローインの位置を伝える。

② 通常のショットで明らかに2点の場合には、特にシグナルを示すことはしない。フリースローの場合も同じ。ただし、2点なのか3点なのか判断が難しい場合はスコアラーに2点を認めるシグナルを示す。3点の場合は必ず3点のシグナルを示すこと。

③ スローインの位置

ファウルなどの判定の後でボールがリングを通過したとしても、そのショットが明らかにカウントされることがないと誰から見ても一目瞭然である場合、必ずしもサイドラインからスローインをする必要はない。